

令和 7 年度 第 2 回学校運営協議会 報告

1 日 時 令和 7 年 8 月 4 日（月）午前 9 時 30 分から 11 時 30 分まで

2 会 場 本校 会議室

3 出席者等

(1) 学校運営協議会委員（※欠席者）

【委員①】元特別支援学校長（地域コーディネーター）

【委員②】中村町自治会長

【委員③】本校 P T A 会長

※【委員④】あおい中村町

【委員⑤】ありんこの里副管理者

【委員⑥】大里生涯学習センター長

【委員⑦】小糸製作所人事部企画課

(2) 校内教職員

校長、副校長、事務長、各学部主事、地域支援部長、教務・情報課長、生徒指導・防災課長、健康安全課長、研修課長、自立活動課長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 校長挨拶

(3) 1 学期の取組報告

(4) 協議等

(5) 学校応援活動

(6) 閉会

5 協議等内容

(1) 校長挨拶

- ・ 猛暑の日が続き、加速的に温暖化が進んでいるように感じる。暑さ指数によっては、学校のプールを利用することができないため、今年度の水泳指導は民間の中田スイミングスクールを利用した。送迎付きのため、全学部で午前中にスイミングスクールに出向き、指導の時間を確保できたことにより、昨年度よりも泳力が付いたという効果もあった。状況や環境に合わせて学校も変えていくことが大切だと感じた。
- ・ 先日、津波警報が出た。本校は津波や洪水の浸水想定区域ではないが、マニュアルに沿って、部活に来ていた中学生を 3 階に避難させ、保護者に引き渡しをしたり、地域の人の避難にも対応したりした。本校は震災の際に、避難所になるため、シミュレーション訓練にもなった。
- ・ 東京 2025 デフリンピックまであと 100 日程になった。先日、静岡新聞にも掲載されたが、本校の卒業生であるレスリング日本代表の船川真央選手が来校し、子どもたちとレスリングで交流をしたり、講演をしていただいたりした。また、サッカーでは酒井藍莉選手から通級生へビデオメッセージをいただき、本校でも応援メッセージを旗に書く活動を行った。本校の卒業生が世界を相手に挑んでいく生き様に触れる良い機会になり、総合的な学習の時間を通して、沼津校や浜松校とも発表し合っていく。また、世界一大きな絵も大阪万博と共にデフリンピックの会場にも展示されることになり、子どもたちの大きな関わりになった。
- ・ 現在、聴覚特別支援学校の在り方や方向性が注目されている。一つ目は、今年度から 3

年間、県とオーストラリアで協定を結び人工内耳療育プログラムを開始する。二つ目は、今年6月25日に手話施策推進法が施行され、手話教育が必要な子どもたちの教育環境を整えることが求められている。より一層子どもたちの実態に合わせて、専門的な知識を持って対応していく。

- ・予測困難な時代の中で子どもたちが自分から考えて行動できる力を身に付けて社会で豊かな生活を送ることができるように、学校でどのような力を育てられるのかをテーマに、地域や家庭で参画できるような、御意見をいただきたい。

(2) 協議等

ア 1学期の取組報告（学校経営計画の取組状況）

（各分掌課長より、資料を基に説明）

- ・生徒指導・防災課は、人権教育年間指導計画を各学年で作成し、特に道徳に着目して取り組んだ。学習の掲示をすることで子どもたちの学習の振り返りにつながった。また、防犯、防災訓練や交通安全教室など繰り返しの訓練で落ち着いて行動できた。小、中学部ではインターネット安心安全講座を実施し、知識を身に付けることができた。
- ・健康安全課では、本校の強みでもある縦のつながりを意識して、幼稚部から中学部の子どもたちで、スポーツデイを行い、競技を通して身体を動かしたり、子どもたち同士の関わりにもつながったりした。2学期には「ストレングスカード」を活用して、自分自身の良いところを知る機会を設定していきたい。
- ・教務・情報課では、ICT支援員を活用して、ICTを使った授業作りのための環境整備をしたり、生徒指導・防災課と連携してICT支援員に助言をもらいながらインターネット安心安全講座を行ったりしたことで、子どもたちの知識、技能の習得につながった。また、教員がキャリア教育の手引きを活用して交流及び共同学習を行ったことで、子どもたちもキャリアパスポートを活用しながら目標を持って交流に参加し、自己を振り返る機会になった。
- ・研修課は、一人一授業研究を実施した。1学期は主事や聴覚の経験のある教員が授業を公開することによって、聴覚特別支援学校の授業モデルを共有でき、教員の授業力向上にもつながった。また、8月6日に静岡校、沼津校、浜松校の3校で夏季合同研修を実施する。今後も3校で連携して教職員の研修や学習の交流も図っていきたい。
- ・自立活動課は、教員の研修や「スキルちゃん」などの掲示等で、研修をしていくことで、聴覚障害児についての理解を深めるとともに、専門性を高め、子どもたちへの指導につなげている。学習や活動の中で幼稚部から中学部までの縦の関わりによって、子どもたちがそれぞれの発達段階に合わせたコミュニケーション手段を使い、会話が増えている。また、中学部の生徒が社会労務士の方から話を聞くことで、社会のルールについて学ぶこともできた。

（各学部主事、部長より資料を基に説明）

- ・幼稚部は、年中、年長が中原幼稚園に交流に行き、友達との関わりを楽しんだり、年少は「おたまじゃくし取り」で近所の方から育て方について教えてもらったりした。また、年中、年長が中村町のふれあいサロンに参加して、地域の方と運動会で行ったお寿司屋さんのダンスを踊ったり、ボーリングを一緒にやったりしたことで、最初は緊張していた子どもたちも少しずつ地域の方と関わり、楽しむことができた。
- ・小学部は、運動会の学部種目で、子どもたちが自分のチームの仲間と勝つための作戦を考えて取り組む姿が印象的だった。また、4、5、6年生の総合的な学習の時間では、デフリンピックについて調べたり、船川選手の壮行会の内容について考えたりした。2学期以降は地域の方たちに伝えていく力を育てていきたい。クラブ活動では、静岡県立大学の学生と一緒にダンスを行い、ダンスを通して初めての方とも身振りでも伝え合えるという経験もできた。

- ・ 中学部は「キャリア教育の充実」に取り組んできた。1年生と3年生の縦のつながりを生かして、「先輩が教える効果的な学習方法」を学んだり、委員会活動の一環として校舎周りの外掃除を通して、地域の方々と挨拶などのコミュニケーションを図ったりしている。また、大里中学校との学校間交流や居住地校交流で経験を広げたり、社会性を高めたりしながらお互いに支え合う意識を深めている。今後は、生徒自身が将来を考えながら、なりたい自分になるために、キャリアチェックシートやキャリアパスポートの効果的な活用に取り組みたい。
- ・ 地域支援部は、乳幼児教室で保護者が「話し掛け 10 か条」を意識して子どもと関わることで子どもの少しの変化に気付いて楽しんで育児をする姿が見られた。通級指導教室は、通級生の集いの中で、子どもたちが頑張っていることを伝え合ったり、悩みを共感し合ったりして、自分の難聴と向き合い、友達との違いを認めながらも安心して学ぶことができています。また、センター的機能の推進及び関係機関との連携では、難聴の理解啓発のために、こども園や学校の先生方、保健師等を対象にした研修会を開催したり、子どもたち向けの難聴理解授業を実施したりすることができた。
- ・ 事務部は、総務事務集約化モデル事業として、静岡県教育委員会と月 1 度打合せをして連携し、事務処理業務の効率化を図っている。事務業務と教育活動を連携して分掌業務を洗い出し、学年会計を実施した。
- ・ 特別支援学校のセンター的機能の推進と充実及び関係機関との連携では、今年度初めて静岡ろうサポーターとして地域の方に提案し、1 回目は低学年のさつまいものつるさしの手伝いをしてもらったり、学習ボランティアで大学生に週 1 回来てもらったりしながら地域との関わりを大事している。

イ 委員からの感想等

- ・ キャリアパスポートとはどのようなものか。【委員①】
(中学部主事) 小学校、中学校でも活用されていて、自分自身が行ってきた行事や学習活動の記録が 1 冊のファイルにまとめられ、客観的に自己を振り返ることができるものである。本校では、年度初めに目標を決めて、学期ごと具体的に頑張りたいことに取り組み、学期末ごとに振り返りをする。年度末には目標の達成を確認し、自身の成長につなげる。さらに、各行事や学校間交流、交流籍交流での振り返りにも活用している。
- ・ 地域支援部の「話し掛け 10 か条」について。【委員⑥】
(地域支援部長) 初めて育児に携わる保護者に向けて子どもに話し掛ける時のポイントを示したものである。
- ・ 幼稚部から中学部までの子どもの人数について。【委員⑤】
(副校長) 幼稚部 6 人、小学部 9 人、中学部 7 人、通級生は 32 人、教育相談は 100 人程度。
- ・ 少人数の学校だが、学習や活動の内容は幅広く感じる。少人数だからこそできる学習の工夫や地域との関わりもある。学校では、先生方の手厚い指導があるが、社会に出たら組織の一人で厳しい面もある。卒業生から実際に社会人の経験を聞けることは子どもたちのキャリア教育にもつながる。聴覚障害者協会の手話学習会に静岡の子も参加している。昔からの聾の方たちとの仲間もいることで、社会に出た時の支えになる。そのような仲間づくりのためにも学校の中でも縦のつながりがあることは大切だと感じた。【委員⑤】

ウ テーマ「共生社会の担い手」を育む学校づくりのために地域社会との協働について (付箋に記入して、意見交換)

○子どもたちが将来、社会の中で豊かに生活するために必要な力について。

- ・ 様々な人と関わりあって、仕事や生活を継続し、楽しめる。【委員①】
- ・ 社会に出た時に自分の良さを発揮でき、相手にも喜んでもらえる。【委員②】

- ・自分から質問したり、考えを伝えたりして、積極的に人と関わろうとする力。【委員③】
- ・大変な時や辛いと感じた時に相手に伝えられる心の強さとコミュニケーション力。また、生活の中で必要な情報を得る力。【委員⑥】
- ・スマートフォンやタブレット端末等を使って、コミュニケーションを取ったり、電話リサーチサービスや遠隔手話通訳サービス等の支援を受けたりするために IT 機器を正しく使う力。【委員⑤】
- ・周囲とコミュニケーションを取る力。挨拶が職場でコミュニケーションの第一歩となる。また、自分の考えを相手に伝えられるスキルを身に付けたり、情報を収集して意見をまとめたりする力。【委員⑦】
- ・自分の好きなことを追求する力、そのような生き方は世界が広がると感じた。【委員①】

(以下、参加した教職員の意見)

- ・自分のことを堂々と表現できる力。
- ・人との関わりを大切にしながら最後まで責任をもって働く力。また、ワークライフバランスと言われているように余暇も楽しめるようになってほしい。
- ・困った時や分からない時に自分から相談できる力。また、辛い時でも継続する力や多少、気にしない鈍感力も大事である。
- ・変化に対応でき、楽しめる力。
- ・自分のやりたいことを見つけられる力。
- ・自分の得意なことや強みを相手に伝える力。
- ・相手とやりとりをするためのコミュニケーション力と社会のルールやマナーを理解して、自立して生きていく力。
- ・自分で自分の生活をより良くしようとする力。
- ・自分のことが分かって、仕事や生活を楽しめる力。また、社会と人と関わり合いながら自分の考えや気持ちを伝えられる力。
- ・自分の考えや意見を伝えたり、周囲と意見が合わない時に折り合いを付けて上手に関わったりする力。

○上記の必要な力を身に付けるために、学校でどのような経験ができるか。

- ・地域のことを知るツールとして、旧大里村についての歴史に関わる大里かるたを使い、郷土愛を高めることで、自分自身のことも知ることができる。【委員⑥】
- ・日本語力を育てる。文章を書いたり、読んだりする力を身に付けられるように、学校や家庭で本や新聞を読む。【委員⑤】
- ・学校でも家庭でも日頃から質問していくことで考える力につながる。【委員⑦】
- ・自分で考えて行動できる場や年上の方と関わったりする機会を設定する。【委員③】
- ・幼い頃から地域の行事に参加し、そのような経験を積み重ねていく。【委員①】
- ・昔からある普遍的な考え方を子どもたちに伝えていく場を設定する。【委員②】
- ・ありんこの里でもお祭りがある。聴覚障害の方との交流や手話サークルの方とも関わるので、参加してほしい。【委員⑤】

(3) 学校応援活動について

- ・委員の方から各学部の子どもたちに向けて、応援メッセージをいただいた。

(4) 次回の学校運営協議会について

第3回の学校運営協議会は11月6日(木)を予定している。